

タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4613		
科目名	危機管理特殊研究 3		
担当教員	吉田 正法		
対象学年	4年	開講学期	前期
曜日・時限	火 5		
講義室	1312	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード 学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E 〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 4－F 〔探求力・課題解決力〕問を設定し又は論点を特定し、それに対する問・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 D P 5－J 〔創造的挑戦力・達成力〕コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結びつけることができる。 D P 6－K 〔表現力・対話力〕文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 D P 7－L 〔協働力・牽引力〕集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 D P 8－M 〔省察力〕知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 E 1 学識と専門技能（10%） F 1 探究と論拠 又は F 2 課題解決（20%） J 2 創造的思考（10%） K 1 ライティング・コミュニケーション（30%） K 2 オーラル・コミュニケーション（10%） L 1 チームワーク（10%） M 1 統合的・応用的学修（10%）		
教員の実務経験	行政官として国際情勢分析や政策提言の資料作成を指導した経験を踏まえ、各自の研究テーマに関する卒業研究の作成における助言と指導を提供したいと考えています。特に第2回、第3回、第4回授業。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	危機管理に関する専門的な問題解決のために必要な知識やスキルを身に付けるための指導を行います。学生個人のキャリア形成にもつながるよう、学生自身が危機管理に関する具体的な業務、資格などに関する専門的な研究を行い、実務教員が中心となり実践的な指導を行います。危機管理に関する知識や教養を養うだけでなく、危機管理において必須となるコーディネート、マネジメントに必要な調整能力を身に付けることを目標とします。ここでは、各自の研究テーマに基づいて立てた研究計画や、プレゼンテーションに対して研究指導を行います。授		

	業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 危機管理, 安全保障, 研究計画, プレゼンテーション	
授業の趣旨	■副題 各自の問題意識に照らした研究テーマを設定し、研究計画を策定します。 ■授業の目的 現状の把握・因果関係の特定・対策の提言という政策リサーチのフレームを参照しながら、社会に対する自分の問題意識に照らした研究テーマを設定し、各自の問題意識に応じた射程の研究プロダクトを危機管理特殊研究4で完成させるために必要な研究計画書の策定等の準備をします。 ■授業のポイント まず、危機管理特殊研究3・4で取り組む学習の意義を確認するために「知の理論」を概観します。次に、現状の把握・因果関係の特定・対策の提言という政策リサーチの基本的なフレームを概観します。その上で、危機管理特殊研究4で卒業研究を完成させるために必要なテーマの設定、先行研究の調査、自分が取り上げたい題材とそれに関して主張したい内容を「リサーチクエスション」と「仮説」というフォーマットで表現し、「仮説」の真偽や妥当性を検証するための方法、利用データ、手順とスケジュール等を研究計画書として整理します。	
総合到達目標	■さまざまな学習の成果を総合して新しく複雑な状況に当てはめる思考と行動の態度を涵養し、課題解決に向けた政策リサーチの実施計画を策定する技能を修得する。 ・知の理論について説明することができる（第1回）。 ・政策リサーチの方法論を説明できる（第2回～第4回）。 ・社会に対する自分の問題意識の中から卒業研究で考察すべきテーマを設定できる（第5回）。 ・テーマに関連する先行研究を調査し、自分の研究テーマの位置付けと意義を説明できる（第6回～第11回）。 ・研究テーマをリサーチクエスションとして表現できる（第12回）。 ・自分が設定したリサーチクエスションに対する仮説を設定し、説明できる（第12回）。 ・仮説を検証するための方法、利用データ、手順とスケジュール等を研究計画書に整理し、説明できる（第13回～第15回）。	
成績評価方法	■レポートの作成・報告（30%）：適用ルーブリック C1・E1・F1・J2・K1・K2・L1・M1 （評価の観点）卒業研究の作成に向けた準備過程において報告すべきこと（文献の内容、自分の研究内容等）についてのポイントが押さえられているか、分かりやすい報告書か、聞き手に理解できるような口頭での報告できているかどうか等について評価します。 （フィードバックの方法）発表時に、都度、ポイントを押さえられているか、書面の内容または口頭による説明の分かりやすさ等についての評価を行い、アドバイスします。 ■授業参加度（30%）：適用ルーブリック C1・E1・F1・J2・K1・K2・L1・M1 （評価の観点）上記のレポート報告者が行った報告に対して自分なりの考察をし、意見及び疑問を提示して、報告者の作業進捗に貢献しているかどうか等について評価します。 （フィードバック方法）その都度、評価しアドバイスします。 ■レポート（卒業研究計画書）の執筆・提出（40%）：適用ルーブリック C1・E1・F1・J2・K1・K2・L1・M1 （評価の観点）自ら設定したリサーチクエスションに対する仮説を検証するための方法や手順、スケジュール等を研究計画書に整理し、提出してもらいます。自ら設定したリサーチクエスションに答える上で、①設定した仮説が適当か、②仮説を検証するため検証方法は適当か、③十分な先行研究を踏まえているか、④スケジュールに無理はないか評価します。 （フィードバック方法）発表時にその都度アドバイスします。	
履修条件	グローバル領域関連の科目を履修していることが望まれます。	
履修上の注意点	■卒業研究の作成に必要な準備を整えます。 卒業研究計画の中間報告と卒業研究計画の発表会を含む授業における研究指導等に30時間、授業外での資料の収集整理・分析・執筆等の卒業研究の作成に60時間以上の学習を要します。 ■報告や議論に積極的に参加し、ゼミ活動全体に対する貢献が望まれます。 欠席の場合は教員に連絡をし、補習や課題等の指示を仰いでください。 ■ポータルサイトを通じて授業に関する資料の事前・事後配布や連絡を行うので、毎週必ずポータルサイトを確認してください。 教員から個別の連絡を受けた場合には必ず応答の連絡をしてください。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス, 知の理論 ②授業概要

	(ガイダンス) 授業の全体テーマ、進め方、評価の仕方を確認する。 (知の理論) 知の理論の概要を把握し、自分がこれから行う作業の意義を全体で討議する。(C1・E1・F1・J2・K1・K2・L1・M1) ③予習(120分) シラバスの内容を精査する。シラバスの内容を踏まえて、この講義の受講を通じて達成すべき自分なりの成果の目標(例: 15回の授業終了後に、この科目に関して他者からも認められるようありたいと思う自分の姿)を設定して書き出す。この目標を達成するための方策(例: シラバスに書かれている予習と復習を必ずやり遂げる)、予想される困難とこれを克服する方策(例: よく判らなかった部分を放置せずに友人と相談する、オフィスアワーの時間を利用して教員に質問する)を考える。3年時に履修した危機管理特殊研究1・2の学習内容を通して振り返る。 インターネットにアクセスして、国際バカロレアのディプロマプログラム(DP)の「『知の理論』(TOK)指導の手引き」をダウンロードし、18~58頁を通読し、科学、歴史学、人間科学を比較してみる。 ④復習(120分) 授業用のファイルを準備し、予習用資料・講義スライド・ノート・講評等を蓄積していく。自分の生活リズムの中で予習×授業×復習の時間を確保する学習計画(日課表)を作成して、学習のPDCA(Plan-Do-Check-Action)を始動する。計画の進捗状況を点検し、目標の達成にとって困難な点が生じていれば克服するための工夫を凝らす時期と予定をたてる。学習の記録をつける。
2	①授業テーマ 政策リサーチの意義と方法論(1) ②授業概要 政策リサーチの方法論を確認し、全体で討議する。担当者の実務経験を踏まえて指導します。(C1・E1・F1・J2・K1・K2・L1・M1) ③予習(120分) 教科書『政策リサーチ入門』の第1章から第3章を通読して要約を作成し、報告の準備をする。 ④復習(120分) 学習の記録をつける。 教科書『政策リサーチ入門』の第1章から第3章を復習し、各自の念頭にあるリサーチ・テーマとの関係について考察しておく。
3	①授業テーマ 政策リサーチの意義と方法論(2) ②授業概要 政策リサーチの方法論を確認し、全体で討議する。担当者の実務経験を踏まえて指導します。(C1・E1・F1・J2・K1・K2・L1・M1) ③予習(120分) 教科書『政策リサーチ入門』の第4章から第6章を通読して要約を作成し、報告の準備をする。 ④復習(120分) 学習の記録をつける。 教科書『政策リサーチ入門』の第4章から第6章を復習し、各自の念頭にあるリサーチ・テーマとの関係について考察しておく。
4	①授業テーマ 政策リサーチの意義と方法論(3) ②授業概要 政策リサーチのプロダクトのイメージを確認し、全体で討議する。担当者の実務経験を踏まえて指導します。(C1・E1・F1・J2・K1・K2・L1・M1) ③予習(120分) 教科書『政策リサーチ入門』の演習例1~3を通読して要約を作成し、報告の準備をする。 ④復習(120分) 学習の記録をつける。 教科書『政策リサーチ入門』の第1章から第3章を復習し、各自の念頭にあるリサーチ・テーマとの関係について考察しておく。
5	① 授業テーマ 研究テーマの抽出 ② 授業概要 ・研究で取り上げてみたいこと及び研究を通じて明らかにしたいことをそう考える理由とともに報告し、全体で討議する。(C1・E1・F1・J2・K1・K2・L1・M1) ・本授業により、社会に対する自分の問題意識の中から、研究を通じて検討すべき課題を研究テーマとして取り出すことができるようになる。 ③ 予習(120分) ・研究を通じて自分が研究を通じて明らかにしたいことがどんなことなのか、明らかに

	したい理由・意義は何であるのかについて検討し、レジюмеにまとめて報告の準備をする。 ④ 復習（120分） ・各自の研究テーマ（自分が研究を通じて明らかにしたいこと、明らかにしたい理由・意義）について、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
6	①授業テーマ 先行研究の整理（1）リサーチクエストン設定に向けた必読文献リストの作成 ②授業概要 ・自分が研究で取り上げてみたいことに関連して既に発表されている文献（先行研究）を調べ、そこではどのような研究が行われているか、先行研究が行われていない空隙や先行研究の指摘が不十分であると思われる点などを整理し、自分が行うリサーチが先行研究に対してどのような関係に位置付けられるのかを報告し、全体で討議する。（C 1・E 1・F 1・J 2・K 1・K 2・L 1・M 1） ・まず、CiNii BooksやCiNii Articles等を使い必読文献リストを作成し（5点以上）、利用可能な所蔵図書館を特定する。 ・また、文献の書誌情報の記載方法や各自の研究用データベースの構築の方法を報告し合い、全体で共有する。 ③予習（60分） 各自の研究テーマに関連するさまざまなキーワードを考えてCiNii BooksやCiNii Articles等に入力し、その検索結果について検討してみる。自分が利用しやすい図書館の蔵書検索サービスや貸し出し手続について調べておく。 ④復習（180分） 必読文献リストに記した図書や論文を入手し、自分の研究のテーマや切口などを意識しながら研究用データベースを構築しながら読み進める。
7	①授業テーマ 先行研究の整理（2）必読文献の読解1 ②授業概要 文献リストに記した第1文献を読み、その概要、各自の研究に対する意義をとりまとめて報告し、全体で討議する。（C 1・E 1・F 1・J 2・K 1・K 2・L 1・M 1） ③予習（180分） 文献リストに記した第1文献の概要と意義をとりまとめて報告の準備を整える。文献の検索・入手・報告準備に費やした時間を記録しておく（研究計画のスケジュール策定の資とする）。 ④復習（60分） 報告に対する教員や他の履修者の指摘等を踏まえて、報告やデータベースに補足する。
8	①授業テーマ 先行研究の整理（3）必読文献の読解2 ②授業概要 文献リストに記した第2文献を読み、その概要、各自の研究に対する意義をとりまとめて報告し、全体で討議する。（C 1・E 1・F 1・J 2・K 1・K 2・L 1・M 1） ③予習（180分） 文献リストに記した第1文献の概要と意義をとりまとめて報告の準備を整える。文献の検索・入手・報告準備に費やした時間を記録しておく（研究計画のスケジュール策定の資とする）。 ④復習（60分） 報告に対する教員や他の履修者の指摘等を踏まえて、報告やデータベースに補足する。
9	①授業テーマ 先行研究の整理（4）必読文献の読解3 ②授業概要 文献リストに記した第3文献を読み、その概要、各自の研究に対する意義をとりまとめて報告し、全体で討議する。（C 1・E 1・F 1・J 2・K 1・K 2・L 1・M 1） ③予習（210分） 文献リストに記した第3文献の概要と意義をとりまとめて報告の準備を整える。文献の検索・入手・報告準備に費やした時間を記録しておく（研究計画のスケジュール策定の資とする）。 ④復習（30分） 報告に対する教員や他の履修者の指摘等を踏まえて、報告やデータベースに補足する。
10	①授業テーマ 先行研究の整理（5）必読文献の読解4 ②授業概要

	文献リストに記した第4文献を読み、その概要、各自の研究に対する意義をとりまとめて報告し、全体で討議する。(C1・E1・F1・J2・K1・K2・L1・M1) ③予習(180分) 文献リストに記した第4文献の概要と意義をとりまとめて報告の準備を整える。文献の検索・入手・報告準備に費やした時間を記録しておく(研究計画のスケジュール策定の資とする)。 ④復習(60分) 報告に対する教員や他の履修者の指摘等を踏まえて、報告やデータベースに補足する。
11	①授業テーマ 先行研究の整理(6) 必読文献の読解5 ②授業概要 文献リストに記した第5文献を読み、その概要、各自の研究に対する意義をとりまとめて報告し、全体で討議する。(C1・E1・F1・J2・K1・K2・L1・M1) ③予習(180分) 文献リストに記した第5文献の概要と意義をとりまとめて報告の準備を整える。文献の検索・入手・報告準備に費やした時間を記録しておく(研究計画のスケジュール策定の資とする)。 ④復習(60分) 報告に対する教員や他の履修者の指摘等を踏まえて、報告やデータベースに補足する。
12	① 授業テーマと概要 リサーチクエスションと仮説の設定 ② 授業概要 ・自らの研究テーマとそこで主張したい内容を「リサーチクエスション」(「なぜ～なのか?」という問い)とこれに対する回答(仮説)というフォーマットに取りまとめて報告し、全体で討議する。(C1・E1・F1・J2・K1・K2・L1・M1) ・本授業により、自らの問題意識を踏まえたリサーチクエスションと仮説を設定することができるようになる。 ③ 予習(180分) ・自らの研究テーマに関して明らかにすべき課題をリサーチクエスションとして表現し、そのリサーチクエスションを設定した理由、クエスションに対する仮説、その仮説を設定した理由をレジюмеにまとめる。 ④ 復習(60分) ・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
13	①授業テーマ 研究計画書の作成(1) ②授業概要 ・各自のリサーチクエスションに対して提示された仮説を検証する方法、手順、検証に必要な情報やデータ、今後のスケジュール等を整理した研究計画書を作成の上で告し、全体で討議する。(C1・E1・F1・J2・K1・K2・L1・M1) ・これまでに構築したデータベースの過不足を検討し、今後の仮説検証のために読破が必要な文献リストを作成する。 ③ 予習(180分) 自らのリサーチクエスションに対する仮説を検証する方法、手順、検証に必要な情報やデータ、今後のスケジュール等を検討し、自らの研究計画書に整理する。 ④ 復習(60分) ・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
14	①授業テーマ 研究計画書の作成(2) ②授業概要 ・各自のリサーチクエスションに対して提示された仮説を検証する方法、手順、検証に必要な情報やデータ、今後のスケジュール等を整理した研究計画書を作成の上で告し、全体で討議する。(C1・E1・F1・J2・K1・K2・L1・M1) ・研究計画のスケジュール策定に必要な作業速度を見積もるために、これまでの文献読破とレジюме作成等に費やした時間を確認する。その上で、卒業研究の執筆に必要な時間を見積もり、提出締切日から逆算した作業のマイルストーンを設定する。 ③ 予習(180分) 自らのリサーチクエスションに対する仮説を検証する方法、手順、検証に必要な情報やデータ、今後のスケジュール等を検討し、自らの研究計画書に整理する。 ④ 復習(60分)

	・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
15	①授業テーマ 研究計画書の作成（３） ②授業概要 ・各自のリサーチクエストに対して提示された仮説を検証する方法、手順、検証に必要な情報やデータ、今後のスケジュール等を整理した研究計画書を作成の上で報告し、全体で討議する。（C 1・E 1・F 1・J 2・K 1・K 2・L 1・M 1） ・作成した研究計画書の内容を報告する。 ③ 予習（180分） ・自らのリサーチクエストに対する仮説を検証する方法、手順、検証に必要な情報やデータ、今後のスケジュール等を検討し、自らの研究計画書に整理する。 ④ 復習（60分） ・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
関連科目	危機管理基礎演習Ⅱ（RMGT2602）、危機管理特殊研究１（RMGT4611）、危機管理特殊研究２（RMGT4612）、危機管理特殊研究４（RMGT4614）
教科書	伊藤修一郎『政策リサーチ入門 仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会、2011年、ISBN978-4-13-032215-7 国際バカロレア、ディプロマプログラム（DP）「『知の理論』（T O K）指導の手引き」 https://www.ibo.org/contentassets/93f68f8b322141c9b113fb3e3fe11659/tok-guide-jp.pdf
参考書・参考URL	久米郁男『原因を推論する 政治分析方法論のすゝめ』有斐閣、2013年、ISBN978-4-641-14907-6 高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書、1979年、ISBN4-06-145553-2 外山滋比古『思考の整理学』ちくま文庫、1986年、ISBN4-480-02047-0
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 開講時に告知します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント５％：パブリックセキュリティ１０％：グローバルセキュリティ８０％：情報セキュリティ５％ ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学９０％：法学１０％

